

静岡県青少年育成会議では、
青少年健全育成事業に対して補助金を交付しています

レク楽のひろば（レク楽の会）

・レクリエーションの紹介、普及と指導者養成



バウムクーヘンを
作りました！

放棄農地再生活動を通じた自然体験学習

(まきのはら水辺の楽校)

・土作りから始める食育活動



脱穀し、籾を
選別しています！

講演会の開催

「むずかしい子にやさしい子育て」

(特定非営利活動法人 静岡家庭教育サポート協会)



「人を『つくり』『育て』『生かす』術とは。」

(三島市青少年健全育成会)



子供のための体験活動支援事業

「竹を利用して、親しもう！」

(特定非営利活動法人 ラブ・ネイチャーズ)

・放置竹林の竹を活用した工作



竹で水鉄砲を
作るよ！

みんなで作る「いつでも満開むぎのほ花壇 '21」

(富士根南小学校応援団 PTA+C)

・小学校内の花壇の整備

吉田野営 2021 (吉田町商工会)

・吉田町の魅力を発掘するキャンピングイベント



【編集・発行】 【入会問合わせ】

静岡県青少年育成会議事務局
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
静岡県教育委員会社会教育課内
TEL:054-221-3305 FAX:054-221-3362
Email:kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

県民運動推進事業費補助金とは・・・

青少年育成県民運動の積極的な展開を図るため、青少年健全育成事業を実施する正会員の皆様に交付する補助金です。



静岡県青少年育成会議広報紙

2022.Oct
Vol.175

ふじのくにユースネット

FUJINOKUNI YOUTHNET

特集をCheck!



わたしの主張2022静岡県大会を開催しました

11月は子供・若者育成支援強調月間です

静岡県青少年育成会議では、子供・若者たちの明るい未来のため、「地域の
子供は、地域の大人が育てる」をテーマに、毎年県大会を開催しています。

基調講演

講師：石川 結貴 氏 (ジャーナリスト)

演題：スマホ世代の子どもとどう向き合うか
～おとなの知らない子どもの世界～

コラボ企画

高校eスポーツ部の活動紹介 (浜松学芸高校)

静岡県大会 in 袋井市

日時：11月27日(日) 場所：袋井市メロープラザ

総会・情報交換会

3年ぶりの開催となりました



総会



情報交換会

Contents

P.2-3 特集

わたしの主張 2022 静岡県大会

・最優秀賞作文 ・出場者発表要旨

P.4

令和3年度県民運動推進

事業費補助金交付事業紹介

第44回 わたしの主張2022

～今、中学生が伝えたいこと～

最優秀賞

意識と行動を変えた先に

浜松市立与進中学校 3年 影山 夏希



「信じられない。まだ食べられそうなのに、本当に全部捨てられてしまうのだろうか。」
新型コロナウイルスの影響で延期され、今年の4月に修学旅行先のホテルで行われることになった職業体験。食事の片付けを担当することになった私は、ホテルでの仕事を体験させていただくという初めての経験に心が踊っていました。しかし、いざ行ってみると、目の前の光景に衝撃を受けました。

次々に回収されていく、お皿に残ったおかず。残飯であつという間に一杯になる、大きな青いバケツ。それを黙々と運ぶ、ホテルの従業員の方々。バケツに放り込まれていく料理の中には、ほとんど手がつけられていない物も多くありました。淡々と行われる作業を見つめながら、私はそれまでの自分の価値観が覆されていくような気がしていました。

「出されたものは食べる」。これは、私が幼い頃からの両親の教えです。

「どうして食べないといけないの？」

と尋ねたとき、

「食べ物や、それを作ってくれた人への感謝や敬意を示すための基本だからだよ。」
という両親の言葉に深く納得したのを覚えています。この言葉が胸に焼き付いているからこそ、ホテルでの職業体験で目にした光景がショックでした。私達が楽しく食事していた裏側で大変な作業が行われ、大量の残飯が捨てられていたのです。その現実をいざ目の当たりにすると、ホテルの方々にも申し訳ないばかりか、食べ物や命を無駄にしてしまったことが苦しくて、目を背けたいという衝動に駆られました。

「どうすれば、こんなふうに捨てられてしまう食べ物を減らせるのだろうか。でも、一人の中学生である私が行動したところで、何も変わらないのではないか。」そう考えていた私を変えさせたきっかけになったのは、修学旅行から帰って来た後に聞いた母の話でした。

日頃母と二人で買い物に行くと、私が「手前の賞味期限が短いものを取ったら？」

と言っても、母はいつも

「棚に置いてあるということは、好きに選んでいいんだよ。」

と言ひ、棚の奥にある賞味期限の長い商品を選んでいました。そんな母が最近スーパーで働き始め、がらりと考え方が変わったのです。買い物をするときに、奥ではなく手前の商品を取るようになりました。スーパーでの仕事を通して、奥から商品を取ると、賞味期限の短いものばかりが売れ残り、食品ロスにつながることに、企業が廃棄コストを払わなければならない、お店が大変だということに気が付いたというのです。

「ちょっとしたことで、一人一人の意識改革が必要なんだなとつくづく思ったよ。」

と、母は呟いていました。

その言葉に、私ははっとさせられました。自分一人がやっても意味がないのではない。どんな小さなことでもやってみなければ始まらない、母の何気ない言葉がそう思わせてくれました。

それ以来私は、食品ロスを減らすために何が出来るのかを考えて行動し始めました。例えば、カレーを作るときに、いつもは捨ててしまう人参の皮も細かく刻んで一緒に入れるようにしています。また、固くて食べにくいキャベツやブロッコリーの芯は、煮込んでスープに入れていきます。「そんな小さなことをしていても仕方が無い」という人もいます。しかし、たったそれだけのことでやってみると、本来は捨てられてしまう部分も美味しく食べられたという嬉しさや達成感が湧いてきます。その気持ちが、「またやってみようかな」という意欲や、さらなる行動の変化につながっていくのです。

「塵も積もれば山となる」ということわざのように、小さな行動を積み重ねれば、食品ロスの量は確実に減っていきます。家庭で余っている食品を、NPO等の団体を介して生活の苦しい家庭に寄付するなど、私はこれからも自分にできることを探していきます。意識が変われば、人の行動は必ず変わります。食品ロスと飢餓がとなり合わせのこの世界を、私達の行動で変えていきませんか。一人一人が意識と行動を変えたその先に、誰にとっても幸せな世界が広がっていると、私は信じています。

静岡県大会 in 森町
開催日：令和4年8月27日(土)
場所：森町文化会館ミキホール
応募者数11,464人の中から、13人が出場しました

最優秀賞は、全国大会出場候補として
関東・甲信越静岡ブロックへ推薦されます!

主催 静岡県教育委員会 静岡県青少年育成会議
独立行政法人国立青少年教育振興機構
共催 森町教育委員会
後援 静岡県校長会 公益社団法人静岡県私学協会
静岡県 PTA 連絡協議会 静岡県私学保護者会
協賛 静岡県遊技業協同組合

優秀賞 (3名)

共感賞



歌う生徒会長

歌とは本当に不思議な存在です。自分が歌って何かを伝える手段でもあり、時に自分の心を支えてくれる存在にもなります。悩みもがく等身大の私。自分の心に正直に向き合った私。人の数だけ歴史あり。どこにでもいる普通の中学生が生徒会長となり、歌と共に成長していく三年間を語ります。

静岡市立蒲原中学校 3年 松永 悠伽



繋ぐ

近年、社会問題となっているヤングケアラーについて、自分には何が出来るのか考えました。そして、過酷なケアを強いられている彼らをサポートし、彼らの将来が閉ざされないような体制を整えるためにも、早急な社会的支援が求められていることを多くの人に知ってほしいと願っています。

裾野市立西中学校 3年 勝間田 陽妃



「自分らしさ」とは

私は極度の人見知りで、自分の性格にコンプレックスを抱いていました。そんなとき、私が散歩をしていると、周辺の景色の美しさに気がきました。そして人間も見方を変えれば良いところがたくさんあると考えるきっかけになりました。これから、自分の良さを見つけ、自信をもちたいです。

森町立森中学校 3年 滝瀬 樹里

優良賞 (9名)

思いやり優先席

長泉町立北中学校 3年 白石 和花

電車には優先席が設置されていますが、外見ではわかりにくい不自由を抱えた人は席の使用にためらいを覚えることがあります。また、他の席に座る人が優先席の存在に安堵して席を譲らなくなるかもしれません。優先席を設けるのではなく、人々が思いやりの心をもつことが大切だと思います。

一つまみのスパイスの価値

静岡県西遠女子学園中学校 3年 芝田 紗椰

世の中の味つけをする調味料。人と人をつなげる、それぞれの持つ魅力にスポットライトを当て、ぐっと可能性を広げる、様々なものに支えられながら、より味わい深い美味しい料理にさせる、そんな調味料に私はなりたいです。私という一つまみの調味料の力で世界が美味しくなりますように。

児童館で学んだこと

静岡市立豊田中学校 3年 安部 心葉

桜が咲く春もセミが鳴く夏も、ずっと私の家の近くにある児童館。昔はよく虫を捕まえに行ったり、絵本を読みに行ったりしました。そんな児童館で、私は今ボランティアをしています。たくさんの人とのつながりを通して得たもの、それは、私の人生を豊かにしてくれるものでした。

買い物の楽しさをもっとみんなに

静岡県立静岡聴覚特別支援学校 1年 小杉 芽生

私は買い物をすることが好きです。しかし私には聴覚障害があり、店員さんとのやりとりで困ってしまうことがあります。様々な工夫が広まって、耳が聞こえる人も聴覚障害をもつ人も、それ以外の困難を抱える人も、様々な人が安心してお店を利用出来る社会になってほしいと思います。

優しさで溢れる世界へ

湖西市立湖西中学校 3年 吉兼 羽乃

中学1年生の時、友達との関係のことで悩んでいた私を救ってくれたのは、当時疎遠となっていた友達と家族でした。人に頼ることが苦手だった私ですが、この件以来、考え方が一変しました。誰もが孤独ではない。自分のことを思ってくれる人が必ずいる。たくさんの人にその事を伝えたいです。

私たちと食品ロス

牧之原市菊川市学校組合立牧之原中学校 3年 高畑 恋那

東京ドーム5個分の食品ロス。日本の現状を知り、私は胸が痛くなりました。食糧危機で苦しむ国の人々は日本をどう思うのでしょうか。今、求められているのは行動力です。学校の給食や日常の中にもできることはあります。食品ロスに関心を持ち、そこから考え行動する人が増えてほしいです。

「外国人を受け入れる。」の奥底にある壁

浜松市立江南中学校 3年 宮嶋 羅布菜

自分自身を日本人だと思っていた私への、周りからの言葉の裏側には「外国人なのに……。」という思いが隠れていることに気がきました。それは、心の奥底に壁があるからこそ生まれる言葉でした。だから少しでも、そういったニュアンスが言葉の裏側に含まれてはいないかと考えてほしいのです。

心に感じる

三島市立北中学校 3年 吉川 しの

高度情報化社会の今、刺激的な情報が飛び交い、バーチャルな世界が私たちの生活に溶け込んでいます。かけ離れた世界ではなく、日常のありふれた景色や出来事に思いを馳せ、心を震わせる感性が重要だと思います。私は、自分の心に寄り添い、何に感動できるのかということを大切にしたいです。

コロナ禍をどうとらえるか

長泉町立長泉中学校 3年 井上 彩香

コロナ禍の学校生活で「苦勞は分かるよ」と気遣われても、私の本当の苦勞など分かる訳はない、と受け入れられずにいました。でも、あるニュースを耳にして私は、とらえ方を変えれば希望も見えると気がきました。どんな困難に直面しても柔軟に考えて行動し、笑顔で卒業の日を迎えたいです。

共感賞とは…

来場した中学生が投票して選ぶ特別賞です。発表の中から、「わかるな」「そうなってほしいな」など、最も共感を得た発表者が選ばれます。



中学生審査員代表



～アトラクション～

森町立森中学校音楽部による箏の演奏と、山名神社天王祭舞楽保存会による舞を披露していただきました。